

平成28年度第1回小牧市休日急病診療所運営協議会 議事録

【日時】平成28年8月9日(火) 14時～15時

【場所】保健センター 大会議室

【出席者】委員12名(敬称略)

後藤恒規、吉田雄一、森雅典、平尾亮人、清水信明、高木康司、
木全勝彦、木村隆、谷口健次、沖本一治、山田徹、舟橋毅

事務局 4名

伊藤所長、野口所長補佐、吉村主査、林主事

【次第】

- 1 あいさつ
- 2 委員自己紹介
- 3 会長選出
- 4 報告

平成27年度小牧市休日急病診療所事業報告について

- (1) 診療状況について
- (2) 収支状況について

- 5 その他

【議事】

(事務局伊藤)

お待たせいたしました。本日はお暑い中、またご多忙のところ、小牧市休日急病診療所運営協議会にご出席いただきましてまことにありがとうございます。定刻となりましたので会議を開催させていただきます。

私、司会を務めさせていただく保健センターの伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

始めに資料の確認をさせていただきます。事前に送らせていただきました次第、運営協議会委員名簿、運営協議会規約、資料としまして資料の1から1-4まで、それと資料2となっております。また、追加資料として本日机上に置かせていただきました資料1-5がございます。不足等ございましたら事務局にお申し出いただきますようお願いいたします。

本日は委員のみなさま定期改選が行なわれて初めての会議でございます。委員の皆様

おかれましては公私共に大変お忙しい中委員をお引き受けいただきまことに有難うございます。皆様の任期につきましては平成 28 年 7 月 1 日から平成 30 年 6 月 30 日までの 2 年間となっております。委嘱状につきましては本来ならばお一人ずつ交付させていただくべきところでございますが時間の都合上机上に配布させていただき交付に代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

また、この会議に関しましては公開となっております。事務局で議事録を作成し、本庁にあります情報公開コーナーとホームページで公開をさせていただきます。現在のところ傍聴者はありません。

はじめに健康福祉部次長山田より挨拶させていただきます。

1. あいさつ

(事務局山田)

委員の皆様方、本日は大変お忙しい中、当運営協議会にご出席いただきましてありがとうございます。この休日急病診療所でございますが、休日における急病の患者に適切な医療を提供いたしまして、市民の安全、そして健康維持に寄与することを目的とし、昭和 53 年度に開設されております。その後、平成 16 年の 4 月に現在地に移転をいたしまして、現在は内科・小児科・外科・歯科の 4 つの診療を行なう一次医療施設として、市民の信頼に応えております。これもひとえに小牧市医師会をはじめ、歯科医師会、薬剤師会の皆様のご尽力の賜物と心から感謝を申し上げます。さて、本日でございますが、規約に基づきまして会長の選出、そして報告事項といたしまして、平成 27 年度の小牧市休日急病診療所事業報告について 2 つの項目がございますのでご協議を願いたいと思います。

最後になりますが、これからも市民のニーズを勘案しながら一次医療施設としての役割を担う休日急病診療所の運営をすすめていきたいと考えております。より一層のお力添え、ご助言をお願いいたしまして開会の挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

(事務局伊藤)

引き続きまして、本日が 2 年任期の初めての会議となりますので委員のみなさまそれぞれ自己紹介をお願いいたします。お配りした名簿順に後藤委員よりお願いいたします。

2. 委員自己紹介

各委員及び事務局自己紹介

3. 会長選出

(事務局伊藤)

続きまして、会長の選出に入らせていただきたいと思います。小牧市休日急病診療所運営協議会規約第5条第2項の定めにより、会長は委員の互選により選出すると定められています。どなたかご推薦はありませんでしょうか。

(木全委員)

医師会長の後藤先生にお願いできたらと思います。

(事務局伊藤)

ただいま木全委員より医師会長の後藤委員を会長とする推薦発言がございました。いかがでしょうか

(全員)

異議なし

(事務局伊藤)

ありがとうございます。ご異議がないとのことですので、会長を後藤委員にお願いしたいと思います。後藤委員、よろしく申し上げます。

(後藤委員(以下会長))

ただいまご推薦に預かりました医師会長をしております後藤といいます。よろしく申し上げます。先ほど説明にありましたように休日急病診療所は小牧の地域の一次医療に一生懸命尽力してまいりました。私もこの委員を長年やっております。今までのいきさつはよく知っておりますし、小牧市休日急病診療所というのは小牧の地域医療の中でどういう位置づけであり、全体的な中でどのような役割を果たすべきかということも、私どもは十分理解しているつもりであります。今後とも市民の皆様にご満足していただける体制を作っていきたいと思っております。

最近ちょっと変わったことは、選定療養費というものができまして、市民病院にかかる初診の方は5,400円取られるということです。そうすると今まで重症な人は市民病院、軽症な人は休日急病診療所ということはいくら啓発しても、なかなかそうなることは無かったですけれども、5,400円ということが浸透しますと、きっとそうなるのではないかと思いますし、休日急病診療所を受診する人は少しずつ増えていくのではないかなと思います。それと、選定療養費というものがあるということを市民は知っていても、小児医療は違うのではないかと知っている人

がいるのですけれども、小児医療も一律 5,400 円取るのだそうです。そうすると、休日急病診療所に対する評価がさらに高まって、もっと発展するのではないか、と思っております。簡単ではございますが挨拶させていただきました。

(事務局伊藤)

ありがとうございました。それでは規約第 5 条第 4 項の定めにより、会長に事故があるとき職務を代行する委員を会長よりご指名いただきたいと思います。お願いします。

(会長)

職務代理に、同じ医師会で申し訳ございませんが、副会長の吉田 雄一委員をお願いしたいと思いますけど、みなさんどうでしょうか。

(一同)

異議なし。

(会長)

異議がありませんので、職務代理人は吉田 雄一委員を任命いたします。よろしく願いいたします。

(事務局伊藤)

それではこれより議事に移ります。会長に議事の取り回しをお願いします。

4. 報告

(会長)

それでは議事に入らせていただきます。議題小牧市休日急病診療所の管理運営について平成27年度小牧市休日急病診療所事業報告についてのうち、(1)小牧市休日急病診療所利用状況についてです。お手元に配布してあります資料に基づいて事務局の説明を求めます。

(事務局野口)

平成 2 7 年度小牧市休日急病診療所利用状況についてご説明いたします。

資料 1、ア 全科診療状況についての表をご覧ください。診療日は、日祝日および年末年始の 4 日間で、日数にしますと 70 日です。年間利用者数は、3,520 人です。その内

訳としまして、多い順に小児科 1,770 人で 50.3%、内科 1,214 人で 34.5%、外科 370 人で 10.5%、歯科 166 人 4.7%です。

月別の利用者数を診療科別にしたグラフも掲載させていただいております。カラーの折れ線グラフのものです。どの診療科においても5月のゴールデンウィーク、9月のシルバーウィークで増加傾向、そして季節として小児科、内科は冬の期間の利用が多くありました。

円グラフの地域別を見ていただきますと、市内の方が89%で、市民の利用が大半となっています。

資料 1-2 になりますが、こちらは、各診療科目の前年比較です。

資料 1-3 をご覧下さい。こちらは、診療科目別の1日平均の受診者数を示しました。外科、歯科は大きな変化はありませんが、小児科、内科については2月に受診者が多くありました。

資料 1-4 をご覧下さい。このグラフは、平成 22 年度から 27 年度までの診療科目別年間受診者数を棒グラフに、総受診者数を折れ線グラフで表しています。H24 年度をピークとして受診者数の減少がみられます。

(会長)

ありがとうございました。引続きまして医師会の平尾委員から説明をお願いしたいと思います。

(平尾委員)

担当理事の平尾です。よろしく申し上げます。統計的な話につきましてはただいまの事務局の報告と重なることが多いんですが、こちらでまとめた資料を報告させていただきます。

平成 27 年度診療状況についてですけれども、受診者数は 3,520 名で、これは過去 7 年間の統計で最も少ない数字であります。21 年度はインフルエンザの大流行、新型インフルエンザの年で 4,950 名受診されましたのでその年と比べると約 1,400 人減少しています。

受診者数をみますとやはり小児科が最も多くて 50%を越えております。ついで内科、外科、歯科の順です。月別に見ますと5月の連休と風邪やインフルエンザの流行する12月から3月がやはり患者数が増えておりまして、6月から11月、風邪があまりはやらない時期は患者数も多くない傾向がございます。これは毎年のごとでございます。年齢別に見ますと4歳までが860人、5歳から14歳が886人の受診をしておりまして、14歳未満で56.8パーセントの受診があったということで例年通り小児科の受診者割合が大きいといえます。

受診者を疾患別に見ますと内科系では呼吸器疾患が2,280人ということで65パーセントを

占めており、圧倒的に呼吸器疾患が多いということです。続いて消化器疾患、皮膚疾患の順で受診されています。外科系の疾患につきましては創傷、裂傷、筋骨格筋系の疾患、骨折は22名の受診がありました。

重症度からいきますと、98.8パーセントの方が当日受診して帰宅、それ以外の方39名が三次医療機関に受診となっております。1例を除きあとは小牧市民病院です。1例の方は名古屋市の、名市大病院に受診されたそうです。三次医療機関にかかった方のうち23人が15歳未満ということで小児科にかかっています。そのうち11名が小牧市民病院に入院されており、その理由は気管支喘息の咳発作、虫垂炎などです。こちらからは以上です。

(会長)

どうもありがとうございました。引き続き歯科医師会の高木委員をお願いします。

(高木委員)

お手元にある資料の1-5に平成27年度の歯科の表があります。1月には、例年ですと受診者数が非常に多くなる傾向があるんですが、今年度に限っては44名から22名に減っているので何が原因だったのかなと自分なりに考えてみたのですけれども、26年度は1日から4日の4連休、27年度は1日、2日、3日の3連休だったのでそれが原因で正月の受診が少なくなったのかなと。診療回数は一緒ですが、8回での診療日だったのですけれども、その辺りが原因かなと推測しております。

あと、今日配布されました資料ですけれども、全体の受診者では小牧市内の方は89パーセントとのことでしたが、歯科では17パーセント弱が市外の方ということで、春日井や犬山もやっているんですけれども、小牧のほうがアクセスなど都合が良くて市外の方にも利用していただけているのかなと思います。

年齢的などころで見ますと40代から60代の方が非常に多くて、おそらく歯槽膿漏が急性症状を呈して、腫れてきて痛いということが多いのではないかなと思っております。

全体的に他の診療科に比べて受診される方が少ないですけれども、日曜日に診療している開業医も市内中心部にあり、以前よりも増える傾向にあるので休日急病診療所の利用も少しずつ減ってきているのかなと。また、土曜日の午後も診療している開業医がほとんどですので、日曜日1日我慢して月曜日に、と思う人もいて休日急病診療所の利用が少なくなってきたのかなとも思います。ただ、これは、という正確な理由は申し上げられません。数は少ないですけれどもこれだけの患者さんを診察させていただいており、ある程度の貢献はさせていただいているところかなと思います。以上です。

(会長)

どうもありがとうございました。では、続いて、次第(2)小牧市休日急病診療所収支状況について事務局から報告をお願いします。

(事務局野口)資料2について報告

小牧市休日急病診療所 収支状況についてご説明いたします。

資料2をご覧ください。平成27年度の全体の事業費が、4,923万1千円で、26年度と比べ0.8パーセントの減となります。

診療報酬については、3,265万4千円で、26年度と比べ10パーセントの減となっています。

市の負担金は1,657万7千円で、26年度と比べ24.1パーセントの増となっています。

(会長)

どうもありがとうございました。どなたかご意見、ご質問等ございませんか。

(会長)

先ほど挨拶した時に言いましたが少しずつ人は減っていくのだけでも今度の選定療養費で、子どもの診療だと今までまったく無料だったものが市民病院へ行くと5,400円支払わないといけないことから、休日急病診療所へ来るんじゃないかなど。病状の軽い人は休日急病診療所、重い人は市民病院へと行き高度な治療を受けるということを推進する上で、いいことだと私は思います。

(吉田委員)

言葉だけ聞くとそうですが、逆に言うと重い人も来るということですよ。いままでは市民病院に親が連れて行っていたのが、重症でも親が5,400円かかるのでまずは休日急病診療所で、ということで時間を掛けるということが起こりそうですけどもそれはしょうがないと。

(会長)

いえ、選定療養費についてさらにいうと、市民病院にかかっても、入院になる人は選定療養費はかからないです。

(吉田委員)

いえ、それは結果論であって、これまでは親がトリアージして、これは休日急病診療所ではだめだぞとしていたのが、そこで5,400円かかるぞと、ちょっと悪そうだけどとりあえず休日急病診療所にするか、ということも当然あると思います。

(谷口委員)

始まってまだ1月なのでまだ経過を見る必要はあると思いますが、救急医療に関しては7月に選定療養費が導入されてすごく減ったとかそういうことは無いですね。一般外来の紹介状なしの方が減っているのは確かです。ですから救急外来の患者さんが減ったという印象は無いです。まだ一月ですのでなんともいえませんが。また、重症の方、入院になる方ですとか、一定の時間以上の処置だとかの治療が必要な方に関しては選定療養費をいただかないものですから。すべて選定療養費をいただくわけではありませんので。

(会長)

なかなかその理解がされていないと思いますし、7月、8月はちょうど患者が少ない頃ですから。一番の問題は冬に子どもの重度な呼吸障害ですとかが来たときに、そういう心配も少しはあるのかな、と思いますけども。まあ、これは国が決めた方針ですからやむをえないです。休日急病診療所で間違っってそういう人が来てもよりの確に、診断を早くして、速やかに市民病院に送れるように対応をきちんとすればいいんじゃないかなと思いますけど。

(吉田委員)

必ずしも貰わないということですが、その判断は誰がするのですか。

(谷口委員)

確実にもらわないのは入院になった方とか手術になった方ですね。あるいは外来での処置が一定以上かかった方ですね。線引きがしてありますので、その状況を事務員が見て判断します。判断できないときは診察医に相談します。

(会長)

今日の主題はどちらかというと平成27年度の患者の動向と休日急病診療所のことについてなのでそのことについて何かございませんか。行政から何か一言ございませんか。

(事務局伊藤)

平成26年度と27年度を比べて27年度は利用者が減ったというところですがけれども、平成24年度からここ数年間利用者は減少傾向にある状態でございます。私なりに原因等調べたと

ころ明確なところは判らないところがございますが、休日急病診療所の年齢別の利用者状況を調べたところ、低年齢層の方の割合が平尾委員がおっしゃたように高く、年齢層が高くなるにつれて利用される割合が減っているということがございます。小牧市の人口ですが総数は横ばい状況であります。低年齢層の人口が減少し、休日急病診療所の利用が少ない高年齢層の人口が増えてきているということが要因の一つではないかと考えております。来年度以降のことに関しましては状況等勘案して体制等整えていく必要があると考えております。

(会長)

行政の方大変理解があつていいと思いますし、私、小児科医として言わせていただければ、予防接種が普及してきて全体的な重症な病気が減ったということはあると思いますし、他の人たちに聞いても、他の診療所も全体的に少子高齢化と、今言った予防接種の普及とで受診者が低下傾向にあるとおっしゃっています。そのことについて何か他にありませんか。木村委員、保健所として何かコメントがありましたらどうぞ。

(木村委員)

ちょっと最近考えているんですけど、先生がおっしゃたワクチン、予防接種のことですが、この前うちで行なった予防接種セミナーで成人のワクチン接種について話題がでました。肺炎球菌ワクチン、これは13価と23価がありまして、従来は23価を連続して打っていたわけですけども、これをどうするのかと話題になりまして。小児のワクチンも大切なんですけども、成人のワクチンもこれだけの高齢化社会になりますとより重要になってくるという印象があります。

(会長)

小児が減ったように高齢者も普及させて減っていくというのは大変重要だと思います。何かそれに対して意見はありますか。平尾委員いかがですか。

(平尾委員)

いえ、特にはないですが。別件で質問させていただきますが、今の勢いで少しずつ患者が減っていきますことに対し、何か対策等は考えておられますか。

(事務局伊藤)

今のご意見に対してですけれども、適切に休日急病診療所を周知する必要があると思っております。例年4月1日の広報こまきで掲載させていただいておりますのと、昨年度につきましては7月に救急車の適正利用、小牧市の休日医療というタイトルで休日の医療体制として休日急病診療所を紹介させていただきました。引き続き休日急病診療所の周知を続けていきた

いと考えております。

(会長)

周知をしており、今の体制を続けていきたいということですね。

その他ご意見ございませんか。山田委員、何かありませんか。今のことじゃなくてもいいです。何か休日急病診療所に望むことですか。

(山田委員)

先ほどおっしゃられていたことに受診者数が減少している、というのがありますが。消防の救急出動ですが、日曜日が救急出動が一番少ない曜日なんです。こうして休日急病診療所がやっているおかげもあるのかな、と感じております。年間の受診者数が 3,520 人ですが、これが多いか少ないかは別として年間の救急出動が 6,000 件だということを考えると多いのではないかなという感想です。

(会長)

それでは休日急病診療所はそれなりに重要な役割をしっかりと果たしていると思われるということですね。非常にありがたいご意見です。

(会長)

他にはありませんか。

(高木委員)

ちょっとコストがかかる話なのですが、12月30日は休日急病診療所が開いてない日になっていますよね。平日扱いで。ですが市民病院も外来はやっていないですし、先生方も12月30日は休んでいる方が多いのではないかなと。歯科でも早いところだと29日から休みにして、というところがあります。なので12月30日は診療しているところが少ないんじゃないかなと。12月30日を年末年始に加えることはいかがでしょうか。予算のこともあるのでこの場ですぐに賛成というわけにはいかないと思いますが。

(会長)

それに関しては、今日はいろんな層の人が一堂に会して討論するところですから、個々のことに関してはまた別の機会がありますから、その時にしましょう。休日急病診療所の調整会議がありますから。

(高木委員)

調整会議の案件ということですか。

(会長)

調整会議の時におっしゃっていただいて、それをみんなが賛成して十分な根拠があったら採用しようと思っております。

(高木委員)

この提案はそちらの会議で出す方がふさわしい、ということですね。

(会長)

そうですね。いろんな階層の出席者がいるところで、個々の事に関しては、他はないですか。沖本さん何かありませんか。

(沖本委員)

休みの日に小さい子どもさんが熱を出したりして、頼るところが休日急病診療所ですので市民の皆様も助かっていると思います。感謝しております。

(会長)

今日はみなさん休日急病診療所に感謝するという意見がたくさんありました。ですから私も休日急病診療所でプライマリーケアをしっかりとやっていきたいなと思っております。他、何かいいですか。福祉部長さん、なにかありませんか。

(舟橋委員)

いろいろご意見有難うございます。例年この会で私のほうから申し上げておるのですが、ここ数年来受診者は減ってきており、逆に委託料は増えており、市の負担額も上がってきている状況ではあります。しかし、先ほども申し上げたように小牧市休日急病診療所は市民の安全安心を守る場であるということで事業については堅持していかなくてはならないと思っております。また、若干受診者は減ってはいるものの、大きく減っているというわけではないのでこれはもうしばらく様子を見ていかなければいけないかなと感じております。先ほど言われました選定療養費のこともあります。これはまだ今年の7月から市民病院のほうで改定されたということで市民周知はまだ充分でない。こういった話は一年、二年とたつて市民の中で浸透してきた段階で休日急病診療所との住み分けといいますか、そういったことは来年度のこの会の統計に出てくるのではないかなと私は思っております。この辺に関しては注視していかなくては

ならないと思っております。

(会長)

私もそう思います。今はまだはっきりしないと。そして人の話はどんどん尾ひれがついていくのでなかなか大変です。では、他に意見ないでしょうか。

5. その他

(会長)

では、次にその他について事務局から説明はありますでしょうか。

(事務局伊藤)

この会議でございますが例年一回の会議となっております。ただ、また何か案件が発生しまして皆様方に相談するようなことがありました場合、再度会議を開催させていただきましてご相談させていただきますのでその際はよろしく申し上げます。以上です。

(会長)

その他、全体を通じて何か言っておきたい、今後の方向性はこうあるべきだなど、何かご意見がございましたらどうぞ。

(会長)

それではないようですので、本日の会議は終了させていただきます。
あとは事務局に任せます。

(事務局伊藤)

委員の皆様ありがとうございました。